



中丹

農業改良

普及センターだより



ハウス見学会



京野菜
新規栽培セミナー

京野菜をつくろうパンフレットの表紙

Second Lifeの パートナーに 京野菜を

千年の歴史を
受け継ぐ伝統野菜



京野菜をつくろう!!

定年退職者の方へ京野菜栽培のススメ

ブランド京野菜プロジェクト

普及センターでは、定年退職後や第二の人生を考えている中丹の農家出身の人をターゲットに、京野菜をすすめています。

8月には、退職就農した方々を支援するための京野菜ハウス見学会・意見交換会を行いました。また10月からは作物の生理や土壌肥料についての基礎知識、農業経営までも含めて学んでいただく、京野菜新規栽培セミナーを実施しました。

京都府中丹広域振興局農林商工部

◆発行◆
2006(平成18年)12月

にし
中丹西農業改良普及センター

〒620-0055 福知山市篠尾新町1-91
TEL 0773-22-4901

e-mail:chushin-no-nishi-nokai@mail.pref.kyoto.jp

ひがし
中丹東農業改良普及センター

〒623-0012 綾部市川糸町丁畠10-2
TEL 0773-42-2255

e-mail:chushin-no-higashi-nokai@mail.pref.kyoto.jp



「福知山産業フェア」でのPR



セカンドライフを京野菜栽培に

2007年問題をご存じですか？

いわゆる団塊世代の人が、60歳を迎えて定年退職するのが2007年から。多くの人が、企業等を退職して第二の人生をスタートします。

中丹管内の企業でも、150社アンケートを行った結果、ここ3年間で約1,100人以上の人が退職することがわかりました。

普及センターでは、表紙で紹介したような取り組みのほか、管内の企業に対して、就農勧誘パンフレットの配布や、企業における退職者セミナーでの就農セミナーを行いました。10月には福知山産業フェアで新規就農のブースを出展し、退職後の仕事の選択肢の一つとして京野菜栽培をPRしました。

これからも、退職予定の方や企業を退職されて農村に帰ってくる方に対して京野菜栽培をおすすめしていきます。

香り高い茶プロジェクト

茶業における担い手の確保について

担い手の高齢化等により荒廃のリスクを抱える茶園が増える中で、担い手の確保は緊急かつ不可欠な課題となっています。

このような状況において、担い手は茶業農家の子弟に止まらず、地域の状況に応じて、地域や農業の内外を問わず、広く確保する必要があります。

しかし、永年作物であるお茶の場合、

- ・新規に植栽した場合、生産に至るまでに長期に渡る先行投資が必要となること
- ・ひとたび荒廃した茶園は再び生産ができるようになるまでには年数を要すること

等の特徴があり、特に外部から担い手を確保する場合には、いかに無所得期間を無くすかが課題となり、基本的には既存生産者の撤退とタイミングを合わせて、その直後に受け入れていく必要があります。

そこで、茶プロジェクトチームでは、各生産組織と担い手確保に関する話し合いを進め、

- ・地域が求める担い手像（特に地域の内外）
- ・担い手確保が必要となる時期

等について整理を進め、まずは受入側の体制（貸付茶園の特定や住居の確保等の受入条件）をしっかりと整えた上で、人材探しに集中することを確認してきました。

このような取り組みを経て、今年7月には舞鶴茶生産組合薬師口支部において、新たな担い手の確保が実現し、茶業農家としての研修を開始したところです。

担い手確保は一時的なものではなく、長期的な展望に立ち継続的に取り組む必要があります。

プロジェクトチームでは現在も複数の生産組織で、担い手の確保に向けた体制の整備や、人材探しを進めているところです。



舞鶴茶生産組合での茶業新規参入者覚書交換会

こだわり農法プロジェクト

環境にやさしい病害虫防除技術の確立に向けて

普及センターでは、環境に優しい病害虫の防除技術の普及を図るため、これまでに次の4つの活動を行ってきました。

1. みず菜栽培において堆肥づくりの実演会や堆肥の連続施用による土壌の物理性の改善効果を実証しています。
2. 紫ずきんの畝立て時マルチ栽培（土寄せ後マルチ栽培含む）の実証を行い、フタスジヒメハムシの被害を軽減できることを確認しました。
3. みず菜栽培において黄色粘着テープを使いキスジノミハムシの被害軽減実証を行いましたところ、軽減効果がありました。
4. 万願寺とうがらし栽培で天敵利用によるアザミウマやハダニ等の防除実証を行いました。



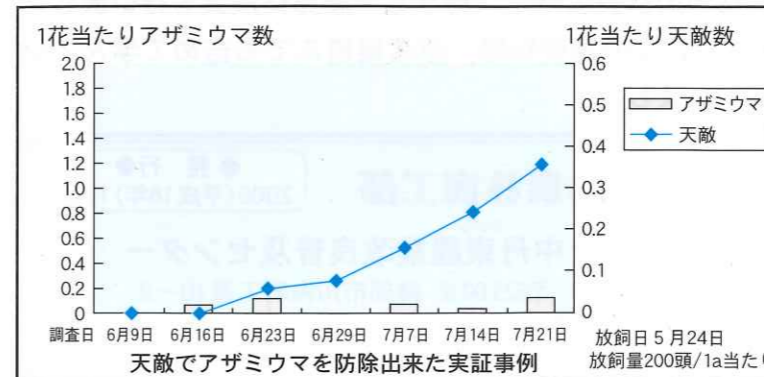
天敵の放飼作業

以上の活動の中から天敵利用防除実証について紹介します。

万願寺とうがらしの主要害虫である、アザミウマ類、ハダニ類及びアブラムシ類は天敵で防除ができます。害虫の初発を青色粘着シートで確認後、速やかに天敵放飼することがポイントで、その他の

害虫や病害は、天敵に影響のない薬剤を組み合わせることで防除可能です。

防除経費は農薬散布よりも高くなりますが、天敵の場合防除時間が短縮でき、作業者に薬液がかかることがないので人にもやさしい防除方法です。



担い手の経営改善プロジェクト

新規就農の促進

京都府では、新規就農希望者に対して、就農支援資金等の融資や担い手養成実践農場事業で支援を行っています。

中丹管内でもこうした支援制度を活用して、新規に農業を始めた方が二十数名います。このプロジェクトでは、最長2年間の研修を終えた農業者が、実際の農業に携わる時に必要となる、幅広い知識を習得してもらうための「あすなる農業講座」を開催しています。



あすなる就農講座

【あすなる農業講座内容一覧】

| | | |
|----------------|-----------------|----------|
| 平成16年度 | 第1回 | 病害虫防除基礎編 |
| | 第2回 | 病害虫の診断 |
| | 第3回 | 複式簿記の基礎 |
| | 第4回 | 土づくり基礎編 |
| 平成17年度 | 第1回 | トマト |
| | 第2回 | ブドウ |
| | 第3回 | 万願寺とうがらし |
| | 第4回 | 有機農業 |
| | 第5回 | イチゴ |
| | 第6回 | 花壇苗 |
| | 第7回 | 売れる米作り |
| | 第8回 | 野菜苗 |
| 平成18年度 (予定) | 第1回 (11/29~) | PC農業簿記 |
| | 第2回 (12/12) | 農産加工 |
| | 第3回 (1/23) | 農産物流通 |

1年目は病害虫、簿記や土づくりなど、農業全般にわたる内容で講義を行いました。

2年目と3年目は作物別に、地域の農業士を始めとする専門農家での現地研修を行いました。

その結果、就農間もない青年農業者は、営農を開始してから実際に直面する様々な課題の解決策が具体的にとらえることができ、目標とする収量、収益に届かない場合でも、次の行動が考えられるようになりました。

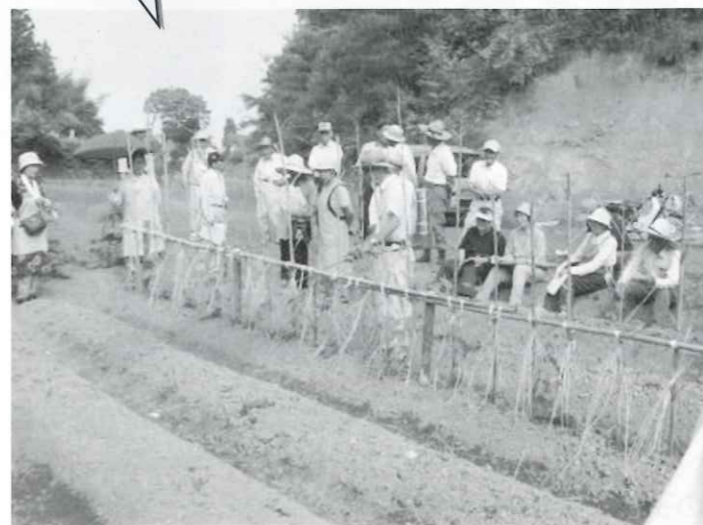
また、地域の先輩農家の存在を知ること、あすなる農業講座以外でも情報交換することができ、日常の相談が円滑に進むケースもありました。

今年度も11月から「あすなる農業講座」を開催し、これまでの研修から得た知識を生かした受講生自身の経営について互いに討論する機会を持つ予定です。

地産地消プロジェクト

消費者に安心・安全な商品をお届けするために

★農薬散布時の飛散状況の確認



普及センターでは売上アップを目標にしている直売所を対象に栽培技術講習会、農薬の安全使用講習会を行ってきました。

その結果として、販売台の改善、看板の新規設置、コンテナや買い物かごの統一や販売員の制服着用など積極的な改善を進める直売所が増加してきました。

また、「安心・安全」についてこれまで以上に意識し、農薬の使用についてより注意を払うようになりました。

多くの直売所が「新鮮な農産物を消費者に」という思いから出発し、消費者からは、「新鮮で安く、生産者の顔が見える」

と親しまれ、徐々に売り上げが伸びてきています。しかし、今日では多様化する消費者の価値観、安心・安全の確かさが求められてきています。生産者のこだわりや販売品の情報や安心・安全をもっと消費者に目に見える形で示して行く直売所が、今後は求められています。

また、学校給食や食育への活動として、直売所を含めた生産グループが、学校給食への計画的な食材提供や児童・保護者を含めた食育の場の提供など「地域の農と食」への取り組みを進めていきます。

★他の直売所を見ることで 自分の直売所の改善を見出す





田舎暮らし受け入れ集落の 取り組み

普及センターでは、「近い将来田舎暮らしを希望する方が、農村移住を実現し、また、農村地域が快よく受入れて地域の活性化につながることを」目指して普及活動や受入集落地域への支援に取り組んでいます。

① 田舎暮らし希望者の受け入に向けた交流活動

綾部市坊口(ほうぐち)集落では、田舎暮らし希望者と人的な交流を重ね、『受け入れが地域の担い手作り活性化につながる』として、田舎暮らし希望者を受け入れていくことを集落として合意し、平成17年度に、「ボーゴチ都市住民との交流をすすめる委員会」が結成されました。

② 黒大豆栽培の体験と交流

「ボーゴチ都市住民との交流をすすめる委員会」では、年間を通じて地域を訪れてもらい、地域の状況や良さを知ってほしいとの願いから、継続的な作業が出来る黒大豆の栽培管理を通じた交流会を計画されました。

5月から6月にかけて都市住民約50組に案内書を送付し、都市住民7組の参加が決まりました。そして下表の通り作業をし、その後に交流が実施されました。

【各作業の実施日と作業内容】

| 交流月日 | 都市住民参加者 | 黒大豆作業内容 |
|--------|---------|---------------|
| 6月24日 | 6組(8名) | 交流会開始式と定植作業 |
| 7月8日 | 6組(8名) | 第1回目の土寄せ作業 |
| 7月29日 | 6組(8名) | 豪雨のため土寄せ作業は中止 |
| 8月12日 | 5組(8名) | 倒伏防止のための杭打ち作業 |
| 10月14日 | 5組(9名) | エダマメとしての収穫作業 |

作業実施日には、ほとんどの方が夫婦や家族連れで参加され、綾部市や坊口集落の状況を知ってもらい、農家(委員)との人的なふれあいが深まり、参加者の中には地域や農業経営への関心を募らせる方もおられます。

土地利用作物の省力、安定生産をめざして!

組織的な営農活動を進めるのに必要な技術として、水稻の打ち込み式直播栽培と小豆省力・機械化栽培の技術を、綾部市館町、福知山市三和町川合地域の営農組織と連携して検討してきました。

打ち込み式直播栽培については、課題となっていた発芽・苗立ち安定と雑草対策を解決するため、は種時～生育初期の水管理方法の検討を行い、生育・収量とも安定的に取り組めるようになりました。

また、ほ場準備やは種、施肥等、栽培管理の「勘どころ」も明らかにすることができました。これらの成果を、18年2月に打ち込み式直播栽培の『要点チェックリスト』にまとめ、栽培期間を通して管理・作業の適否を点検しながら、失敗のない栽培を行っていただけるようになりました。

小豆省力・機械化栽培については、機械作業に適したは種時期・栽植密度や収穫・調製方法の検討を行いました。同時に、機械作業実演会の開催、経営収支・労働時間のデータ分析による経営試算等、これから取り組まれる組織への情報提供などを行っています。

この結果、新たに9つの組織が取り組みを開始され、省力・機械化栽培の面積は、平成14年度の約13haから今年度は約40haにまで拡大しています。



打ち込み式直播栽培
「要点チェックリスト」



小豆省力・機械化栽培
機械作業の実演会

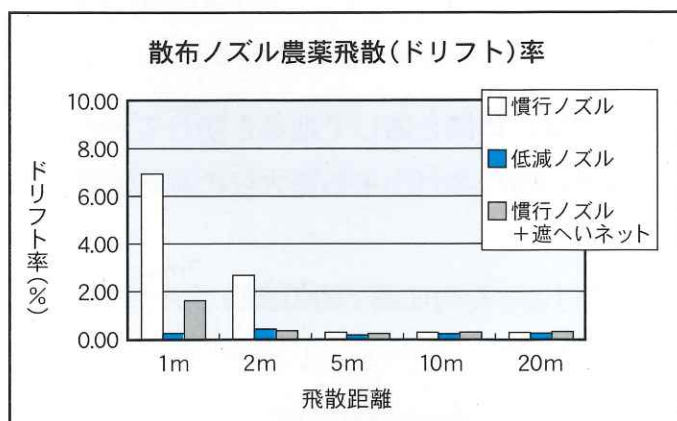
農薬飛散対策実演会を開催しました

平成18年5月29日から農薬の残留基準値にポジティブリスト制度が導入されました。

本制度では、農薬を適用のある作物に対して、正しく使用している限りは、残留基準値を超える心配はないものの、風などで適用のない作物へ飛散(ドリフト)することによる残留基準値超過が懸念されます。

普及センターでは、7月21日両丹茶生産組合を対象に(参加約70名)、8月22日中丹全域生産者対象に(参加23名)「農薬飛散対策実演会」を開催しました。実演会では、飛散対策の留意点について説明を行った後、水分が付着すると黄色から青色に変色する「感水紙」を用いて、「慣行ノズル」と「散布粒子の粗い飛散低減ノズル」の飛散程度の違い、遮へいネットによる飛散対策効果を確認しました。

その結果、風速1.5m/秒で、飛散は散布場所から2m程度までになりました。また、低減ノズル



ル、遮へいネットを用いた場合は、慣行ノズルに比べ、飛散は少ない傾向となりました。

顔に風を感じる時は、風速1.6~3.3m/秒とされていますので、このような状況の時は、散布を見合わせましょう。

8月22日 農薬飛散対策実演会 試験結果

- ・試験条件 農業大学校 晴天 北風 1.5m/秒
- ・動力噴霧器で散布圧15kgf/cm³により散布



当日は紫ずきんのほ場で実演をしました



参加者全員で「感水紙」の変化を確認